

京都開催「全国縦断：サイエンスカフェ・科学技術史」

- **日時：平成 29 年 5 月 20 日(土) 15:00～16:30** (予定)
- **場所：キャンパスプラザ京都 6F・第一講習室** (共同サテライト／立命館大学)
〒600-8216 京都市下区西洞院通塩小路下る東町 939
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
アクセス：京都市営地下鉄烏丸線・近鉄・JR 各線「京都駅」下車，徒歩 5分
(<http://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access>)

- ◇ **話題提供講師：伊藤和行さん** (京都大学大学院文学研究科教授、関連著書：『星界の報告』講談社学術文庫、2017、『ガリレオー望遠鏡が発見した宇宙』中公新書、2013)

- ◇ **テーマ：「ガリレオ - 「科学者」の誕生 - 」**

- ◇ **内容：**

ガリレオ・ガリレイ (1564 -1640) は、ニュートンらと並んで近代科学の創始者として知られている。彼の落下法則の発見や望遠鏡による天体観測は、自然現象における数量的法則性の探求、実験や観測による確証といった近代科学方法を最初に提示したものみなされている。

一方、現在我々が科学者とよぶ人々が登場するのは19世紀のことだった。物理学や化学、生物学といった個別科学が成立し、大学において理学部が設置されたのは19世紀に入ってからであり、これらの事件は科学の制度化と総称される。この制度化の中で「科学者」という社会的な存在が登場したのであり、英語で「科学者」を意味する“scientist”という語が造られたのも1840年頃のことだった。その意味においては、17世紀に活躍したガリレオを「科学者」と呼ぶことは時代錯誤である。

しかし、ガリレオは、哲学者とは異なる形態の知識を求めたのであり、彼の活動は新しい知識人の登場を示すものであった。彼の知的活動はのちの「科学者」の登場の先駆として捉えることはできないだろうか。

今回のサイエンスカフェでは、ガリレオの活動を、望遠鏡による天体観測を中心に、「科学者」という新しい知識人の登場という観点から検討したい。

- ◇ **挨拶・コーディネート：兵藤友博さん** (立命館大学経営学部教授、日本学術会議会員)
- ◇ **司会：小長谷大介さん** (龍谷大学経営学部教授、日本科学史学会普及委員)

- **参加費：無料**

- **参加定員：30～40名程度** 【参加方法】事前申し込み

「氏名」及び「5月20日サイエンスカフェ参加希望」と書いたEメールを、上記の兵藤宛て hyodot@ba.ritsumei.ac.jp にご送付ください。

- **主催：日本学術会議 科学と社会委員会・科学力増進分科会**
- **共催：日本科学史学会 普及委員会**
- **後援：京都市教育委員会**